

6 . 気象の状況

三面海に囲まれた本県は、南九州、四国南部、紀伊半島及び伊豆半島と並んで温暖な地方です。しかし両総台地は内陸性気候で寒暖差はやや大きく、反対に太平洋及び内湾沿岸は海岸性の気候で比較的暖かくなります。

雨量は地域により差はありますが、房総丘陵の南側が多く、北西部は少なくなります。特に内湾沿岸は本県でも雨量の少ない地域です。

平成15年の天候の特徴は、1月から3月頃までは気温の変動が大きく、1月の降水量はかなり多くなりました。4月から6月までは高温傾向が続きました。7月、8月は、オホーツク海高気圧や梅雨前線の影響を受け顕著な低温となりました。降水量は多く、日照時間はかなり少なかったです。9月以降は気温の変動が大きく、特に11月は記録的な高温と多雨となりました。

年間平均気温は平年並、年間降水量はかなり多くなりました。

平成16年の天候の特徴は、1月から4月にかけては高気圧に覆われて晴れる日が多く、5月は低気圧や前線の影響を受けて多雨となりました。6月は太平洋高気圧が北へ張り出し日本付近で勢力が強かったため、7月を中心に9月まで高温が続きました。10月は秋雨前線や台風により月降水量の記録を更新する多雨となりました。11月は高気圧に覆われて晴れの日が多く、12月中頃まで高温が続きました。

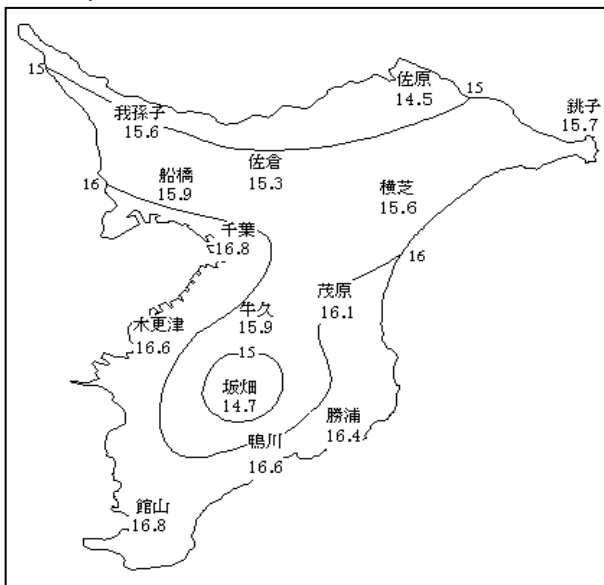
年平均気温はかなり高く、千葉、館山が第1位、勝浦が第3位の記録を更新し、年降水量も北部でかなり多く、千葉が第2位、銚子が第3位の記録を更新しました。

気 象 分 布 図

県内年間平均気温()

県内年間降水量(mm)

2004年



2004年

